

## 当面の農作物栽培管理について

平成28年(2016年)1月15日  
農業技術課

### 【麦類】

#### 1 越冬後の生育状況の確認

2月中下旬に生育状況(茎数、幼穂形成の有無・凍死状況等)を確認する。特に、播性の低い品種(シュンライ、ハナマンテン、ゆめかおり)については重点的に観察する。

#### 2 対策(←2月中下旬に生育状況を確認後実施する)

##### (1) 生育前進・倒伏対策(踏圧)

- ア 効果: 暖冬等で幼穂分化が進みすぎた場合の生育抑制による有効茎数増加  
幼穂形成遅延による凍霜害回避や耐寒性強化  
下位節間の伸長抑制による倒伏防止

イ 方法: 土壌が乾燥している日中に、50~60kg/m<sup>2</sup>相当のローラーか足で1~2回踏圧する

##### 【留意事項】

- ・トラクターによるローラー牽引では、車輪による損傷を最小限とするため、麦畦と直角に走行する。
- ・春先の茎立期後は茎を損傷するため、幼穂形成期までとする。
- ・生育の悪い麦では行わない。
- ・土壌水分の高い粘土質の水田では、土を締めすぎるので行わない。

##### (2) 追肥(越冬後追肥) ★追肥時期・量については、普及センター、JA等で検討する。

##### ア 生育量不足の場合

- ・茎数不足の場合は、幼穂形成期までに施用する。
- ・積雪5cm程度になり、午前中の雪面が固いうちに散布する。

##### イ 生育量過多の場合

- ・越冬障害少なく生育量の多い場合は、追肥時期を茎立ち期頃まで遅らせ、量は少なめにする。
- ・生育量が多いものの、黄化している場合は、葉色回復程度(窒素成分で1kg/10a程度)を幼穂形成期までに施用する。

### 【果樹】

#### 1 整枝せん定

- (1) 果樹全般に例年より早めに計画的に実施する。
- (2) ブドウでは樹液流動(水上げ)前にせん定作業が終わるようにする。
- (3) リンゴでは切り口の露出期間が長いと腐らん病感染の危険性が高まるため、切り口への塗布剤処理を早めに実施する。

#### 2 加温栽培

7. 2℃以下の低温遭遇積算時間について、1,000時間をも一つの目安とすると、平年に比べ10日程度遅れている。オウトウの加温栽培では、加温開始時期を例年より遅らせる。

(参考)

「7. 2℃以下の低温遭遇積算時間について」(長野県果樹試験場ホームページ)

<http://www.pref.nagano.lg.jp/ka.jushiken/chosa/teirei/documents/20160112teionsekisan.pdf>

### 3 樹体凍害防止対策

- (1) 核果類では、主幹部へワラ巻き資材による保護を行う。特に幼木期（結実開始期前後の樹齢）が被害に遭いやすいので、保護を徹底する。
- (2) リンゴ新わい化栽培では、主幹部への白塗剤塗布、可能であればワラ巻きを行う。特に定植5年間は着果量が年々増加するので励行する。
- (3) リンゴのカットツリー苗（2年育成苗）の1年目の越冬に際し、中耕処理を行う。

### 4 その他

- (1) 休眠期防除は、生育状況をよく観察し、発芽前の防除時期を逸しないように注意する。
- (2) 生育前進化に伴い、開花期の凍霜害発生が懸念される。防霜対策として燃焼資材の準備や防霜ファンの点検を早めに行う。
- (3) モモの摘蕾作業は、適期に作業が終了するように、例年より早めから計画的に実施する。

## 【野菜】

### 1 育苗管理

早物レタスの育苗は、高温傾向が続いた場合生育が進み、ほ場準備が間に合わないケースが想定されるので、換気を行うなど温度管理に注意し生育をコントロールする。

## 【花き】

### 1 りんどうの促成栽培

保温開始時期は、休眠打破前から行うと開花の揃いが悪くなるほか、切り花の品質が低下する場合があるため、必要な低温要求量を満たしてから実施する。極早生品種の場合、5℃以下の低温で700時間が目安となる。

### 2 花木類の促成加温栽培

休眠が十分開ける前に加温施設へ入室すると開花の揃いが悪くなるほか、サクラでは花卉が半開きで小型になる等、品質が低下する場合があるため、休眠覚醒後から開始する。ケイオウザクラの場合、8℃以下の低温で700～800時間、または5℃以下では400～600時間が目安となる。